

ワークショップ及びアンケートでのご質問ありがとうございました。ご質問の言葉を少し変えたり、コメントを質問に変えさせていただいている箇所がありますが、ご了承ください。

●授業の方法について

読解活動では、どこまでを目的とし、どのような活動までを含みますか。

文章の内容自体を理解したり、読解技術を磨いたりするも一つですし、本ワークショップ中でのグループワークでも見られたように、他の言語活動（聞く、話す、書く）と結びつけた活動をするのも一つだと思います。「読解」についてのワークショップでしたが、「読解」というものに教師自身が縛られないことも大切かと思います。

一つの文章でどのくらいの時間を使いますか。

下の予習とも関連しますが、簡単に読んできたり、音声を聞いたりしてやることを授業外で行うことを考えている場合、文章を踏まえてのディスカッションなど読解とは異なる活動も含めて、一つの文章で60-90分程度ではないかと思います。ただ、これも精読するのか、大意取りのみにするのかなど、どんなことをその授業の目的とするかによるかで変わると思います。

音声はこちら：<https://greatjapanese.jimdofree.com/>

このテキストでは、課に入る前の自宅での「予習」についてはどうお考えかなと思ったのですが、やはり、学習者に寄り添い、合わせていく臨機応変さと柔軟性が大切だなあと思いました。

お書きくださった通りだと思います。私たちも、教室内で内容理解の確認や文章を踏まえた活動（ディスカッションやグループワークなど）をする場合は、簡単に読んだり、音声を聞いたりしてやることを予習としています。ただ、単に「読んできてください」ではなく、読む動機付けとして、例えば、予習を課す前の授業で、教室で簡単にトピックや人物への導入をして興味を高めたり、理解度を記録していく「読解・聴解チャレンジ!!」など、読むことの上達を可視化するような工夫をしています。

読解・聴解チャレンジ!!はこちら：

<https://greatjapanese.jimdofree.com/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0/%E5%88%9D%E4%B8%AD%E7%B4%9A/>

著者の先生方は、この教材でジグソーをされているのでしょうか。分け方が難しいように思いますがどのように行っているのでしょうか。

確かに前後の文脈がないと難しい場合もあるかと思えます。第一段落は、その人物やトピックの紹介となっている文章が多いので、その段落は全体で一緒に読み、残りの段落を振り分けるということをしていたりしています。

また、本ワークショップのグループワークの際に、Aグループは第一段落と第二段落、Bグループは第二段落と第三段落...のように、重複した箇所を作り、グループ間で理解を確かめ合うという工夫をしていらっしゃるグループもありました。

著者の先生方が実際にどのようにこの教材を使って授業を行ったかについてもお話を聞けたらと思います。

(石川) 色々な使い方ができると思いますが。授業内で本文を読まない使い方についていくつか説明します。まず、授業内で精読にとらわれない（多読的な読み方）について指導します。その後、授業内で、導入の部分にあたる読む前に2やキーワードを使いながら、読む動機づけをつけをします。実際の読み物は授業外で読んでもらい、次のクラスの時に内容質問やディスカッションを行うという作業をします。

また、別の使い方としては、この読み物を多読のように使い、自分の好きな人物を選んで授業外で読んでもらい、レポートとして、あらすじのまとめと自分の意見や感想を書いて出してもらうという作業を行います。学期の終わりに読んだ人物の中から、自分がクラスメートに紹介したい人物を選んで発表するというプロジェクトを行うこともできます。

いずれの場合も、クラス内では読解作業を行わないので、授業時間を取られることもありませんし、学習者のレベルに合わせて読解に時間をかけられるというメリットがあります。また多読的な使い方では、学習者の興味に合わせて、人物を選択できるので、学習者の読む動機付けも高く、読む作業についての負担を感じさせないという効果もあるのではないかと思います。

(米本) 発展的な活動として、本教材の文章を読んだ後で、各自がクラスメートに教えたいと思う人物についての文章を書き、それを読み合い、話し合うという活動をしています。学んだ内容をさらに深めたり、学生の興味のあるトピックや、初級の日本語の授業ではなかなか扱えないトピックに触れたりする機会になっています。学生の書いた文章は以下からご覧いただけます。

<https://kazuhironemoto.wixsite.com/website>

●教材の難易度や学習者の多様性について

この本の初中級は「げんき」2のレベルからということでしたが、中級前半でも難しいのではないかという印象を受けましたが、それが教師の勝手な判断と今は反省しております。

私たちも、「このレベルだったら...」という先入観で考えがちではあるので、自戒としたいと思います。また、これは、教員側だけでなく、学習者にも当てはまることではないかと思うので、学習者にも様々な読み方があり、読み物の内容のすべてが分からなくてもいいという読み方もあることを理解してもらい、積極的に読むという作業に取り組める環境を作っておけることが大切だなと感じています。

同じレベルの学生でも、年齢や学習機関・動機によってやり方や興味対象が変わってくるのではないのでしょうか。

おっしゃる通りだと思います。同じ教育機関で同じレベルを教えていても、毎年、また、その年の学生の間でも、興味関心やニーズが全く同じということは少ないのではないかと思います。私たちもイメージの枠に囚われないように気をつけたいと思いますし、学習者が今、どんなことに興味を持っているかなどをいつも教員側も意識して把握することが大切だと思います。

●教材の作成について

人物の選考方法について詳細が知りたかった。

学生が興味を持ったり、話したいと思ったり、教員が理解を深めて欲しいと考えたりするトピックを提示するために、様々な分野から何か特徴的なエピソードを持つ人物を考え、選んでいます（例：黒柳徹子 - 教育、LD / ドナルド・キーン - 国籍、アイデンティティ / 徳川家康 - 我慢、失敗）。また、「え、そんな人まで知っているの？」と他の人と会話が弾むような、海外ではあまり知られていないような人を選んだりしています。

初級の本も出版されるのでしょうか。

初級前半が終了する頃から読み始められるものを現在作成中で、2023年度中にはお届けできればと考えています。

●その他

筆者達ともっと議論したかったです。

ぜひ、遠慮なくご連絡ください！

石川 智 satorui@bu.edu

米本和弘 kaz.isc@tmd.ac.jp

森 祐太 y.mori@hum.leidenuniv.nl